

〈企業特集：検査機器・試薬・技術の新たな展開〉

## 序文；検査機器・試薬・技術の新たな展開 (第25回年次学術集会より)

下村 弘治

### New developments in clinical laboratory equipment, reagents, and technology

Hiroji Shimomura

**Summary** In recent years, there has been progress in institutionalizing the international certification of Japan's clinical laboratories, and a high level of quality control is now demanded in clinical laboratory testing. Introduction of new reagents, equipment, and technology is essential in establishing quality control systems that can provide accurate and reliable data to clinicians. Based on the theme "new developments in clinical laboratory testing equipment, reagents and technology," lectures on new technology were presented by 5 keynote speakers at the 25th Annual Meeting of The Society of Analytical Bio-Science.

All lectures were in line with the conference's theme as they discussed the importance of technology for improving the reliability of laboratory test data in quality control systems.

**Key words:** Clinical laboratory reagents and instruments, Clinical laboratory technology

近年、我が国の臨床検査室の国際認定に向けた制度化が進められており、臨床検査における高いレベルの品質管理が要求されてきている。この品質管理体系の確立において、新たな試薬・機器・技術の導入は、的確で信頼性のあるデータを臨床医に提供するために必須である。第25回年次学術集会では「検査機器・試薬・技術の新たな展開」として5名の先生から新たな技術のご講演をしていただいた。

はじめに、岩田亮一先生（エーディア株式会社営業本部 企画室）から「間質性肺炎の血清

マーカーKL-6の臨床的意義」と題して、間質性肺炎と肺胞性肺炎の違い、KL-6の自動化試薬の基本性能、臨床データとして薬剤性肺炎の診断におけるKL-6の意義について講演をしていただいた。

近藤 大先生（協和メデックス(株)営業支援部）からは「酵素法HbA1c測定試薬 メタボリード®HbA1cのご紹介」と題して、メタボリード®HbA1cの汎用自動分析機への導入について講演をしていただいた。

大島匠平先生（株式会社LSIメディエンス 研

文京学院大学大学院 保健医療科学研究科  
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1

Department of Clinical Laboratory Medicine, Bunkyo  
Gakuin University.  
2-4-1 Mukogaoka, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0023, Japan

究開発・学術部)からは「新規マイコプラズマ抗原検査キット『プロラストMyco』と題して、既存試薬との性能比較を行った結果、プロラストMycoが優れた性能を持つことを示された。

金子静知先生(メルク株式会社メルクミリポア事業本部)からは「検査で使う純水の基礎知識と純水装置のポイント」と題して、高品質な純水を安定的に供給するRO-EDI-紫外線殺菌方式、不純物とくに生理活性物質を除去した超純水(有機物酸化分解紫外線-イオン交換・活性炭-限外濾過膜またはメンブレンフィルター方

式)について講演をしていただいた。

最後に小島和茂先生(日本電子株式会社医用機器本部)からは「BioMajestyシリーズにおけるリアルタイム異常反応検出技術のご紹介」と題して、分析上の異常反応を反応曲線の異常チェック法を新たに追加することでリアルタイムに検出できたとの報告をいただいた。

いずれの報告も品質管理体系上、検査データの信頼性向上に繋がる重要な技術であり、本学術集會にふさわしい講演内容であった。